

為兼家歌合（乾元二年）

十番 左持

経親卿

ちかくなる秋をしらせて風の音も
かつがつすずし夕暮の空

右

為相朝臣

みだれ行く蛍の光なさけ見えて
月におとらぬ夏の夕やみ

左、ことなる難なく侍るべし、右も思えて、
猶難決勝負歟